

沖繩奪還・安保粉碎・日帝打倒!

12.15~17全学連臨時全国大会総結業よ!

七〇年六月安保決戦の大爆発で 日帝のアジア侵略宣言を葬れ!

全都・全国のすべての学友諸君、
十一月決戦は打ち抜かれた!!
わが全学連はいま、次の三つのメルクマイルをもって、十一月決戦勝利、と、内乱的死闘の七〇年代にむけての不動の確信を語る事ができる。すなわち、十一月決戦は、①全共闘軍団・反戦軍団を中核に、広汎な民衆をひきつけて本格的武装闘争を貫徹し、②反戦派労働者の本格的登場を待ちとり、③本土―沖縄の革命の一体化をなしとげることによって佐藤の七〇年政策―ベテンの「七二年返還」論を大破綻におとしこめた、ということである。

日帝のアジア侵略―「日米共同声明」
民衆の十一月決戦への総決起に恐れおのいた佐藤は、ヘリコプターでここソコと米国に逃げ出した。
十一月決戦を打ち抜かれた佐藤に残された道は唯ひとつ、真正面からの反革命攻撃である。「日米共同声明」こそは、その反革命攻撃の宣言である。すなわち、ベテンの「七二年返還」論をふりかざしながら、①沖縄の永久移基地化、日米共同前線基地化、②安保の美質の大改定（―本土の全面的侵略基地化）を七〇年から七二年にかけて強行し、日帝のアジア侵略を公然と行なおうというものである。

七〇年六月安保決戦の大爆発で「日帝のアジア侵略宣言」を葬れ!!
佐藤は、日帝のアジア侵略を宣言した、がしかし、それは、あくまで「宣言」であり、実際にそれを成しうるか否かは、七〇年―七二年の政治過程に一切がかかっている。いまこそ、我々は、十一月決戦を上回る第二、第三の決戦をもって、日帝のアジア侵略宣言を葬らねばならない。
全学連大会の任務は、①十一月決戦を教訓化し、②沖縄奪還・安保粉碎・日帝打倒の戦略を深化させ、③一―三月三里塚決戦・沖縄奪還闘争の大爆発と、七〇年六月安保決戦にむけての不拔の戦闘体制を打ち固めることである。そして、いまこそ、「第二民青」革命の反革命集団を粉砕し全国全共闘の強化を通して、大学を安保粉碎・日帝打倒の岩、として打ち固め、全学連の大進撃を開始せねばならない。
すべての学友は、全学連臨時全国大会に総結業せよ!!

全学連中央執行委員会
委員長 金山克巳

スケジュール

15~17日 全学連臨時全国大会

十五日 品川公会堂（国電大井町下車）
十六日 小金井公会堂（中央線武蔵小金井下車）
十七日 法政大学（国電飯田橋下車）
いずれも九時開場、十時開会

連絡先―法政大学経済学部自治会
TEL (〇三) 二六二一〇二一七